

# とやま親学び 通信

平成30年12月10日発行  
富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

すっかり寒くなりました。みなさん、お元気でお過ごしでしょうか。  
今回は、幼保「親学び講座体験会」の報告と、リーダーさんからお聞きした情報を中心にお伝えします。

(中略)

## 推進リーダーのみなさんから

### 【就学時健診で親学びをする時は・・・】

初めての参加で戸惑いを感じられる方も多いようです。何度か進行されたリーダーさんにお聞きすると

- ①はじめに、目的を伝える  
(「何のため?」という戸惑いを解消する)
- ②「今後9年間、共に歩む仲間」として、意識してもらうなど、対応しておられるそうです。

また、より充実した講座になるよう

- ①他の推進リーダーに協力してもらい、複数で進行する  
(グループワークが充実するようにはたらきかける)
- ②入学前の不安を話題にする

などの工夫を取り入れておられる方もいらっしゃいます。

さらに、自分のことを話すことに抵抗のある方もおられることを配慮して

- ①自己紹介は、子供の人数程度にする
- ②設問に対する答えは、自分の考えでも、架空の人の考えでもよい
- ③発言はパスしてもよい(無理に話さなくてよい) などにしておられるそうです。

### 【使っているプログラムは・・・】

- ① 子供・保護者・先生方の目線で、みんなが悩んでいること、考えてみたいことをテーマにしている。最近では、「登下校時、保護者の送迎が多い」という学校が感じている困りごとから、初期プログラムP34の「いつまでも手をかけていませんが!」を使った。
- ② 中学校のPTA会長さんの発案で、叱られ方についての生徒アンケートをとり、その集計結果をもとに、親学び講座をした。「叱り方」に迷う保護者が多いと感じたので、幼稚園でも、中学生のアンケート結果を使ってやっている。
- ③ 主催者の依頼で、オリジナルのプログラムを作成した。息子のサッカーに熱が入り声を荒げる父親と、保育参観でふざけていた娘にキレてしまう母親の二つの場面をエピソードにした。

### 「親学び」ってなに?

家庭は、子どもたちが健やかに育つための基盤でもあり、すべての教育の出発点でもあります。子どもの健全な成長には、親が親としての役割と責任を果たすことが重要ですが、どんな親でも失敗を繰り返しながら子育てをしています。子どもに幸せになってもらいたいからこそ、迷いや悩みが生じるのは当たり前のことです。昔は、親世代や近所の方から子育てを学び、多くの方が子育てを支え合い、ゆとりや自信を持って子どもと向き合える環境でしたが、ここ近年は、人間関係の希薄化や核家族が進んでいるため、子育てにおいて情報が少なくなっています。そこで、親としての在り方を今一度学習してみよう。というのが「親学び」です。

参加者への配布プリント (一部抜粋)



①いつまでも手をかけていませんが! (一部抜粋)  
親を学び伝える学習プログラム 模範

こんな叱られ方は嫌だ

- 暴力  
子供が言うことを聞かなければ暴力をふるう、言い合いに負けたら、最後は暴力で解決させる、殴られる、たたいてくる、蹴る、ビンタ、つねる、物が飛んでくる、くくりつけられる、閉じ込められる、髪を引っ張られる、座っている椅子ごと倒される、など
- 一方的 (という言葉が含まれている)  
こちら側の意見を聞かずに一方的に叱る、何か言うと言いつつ逆するなどとさらに叱られる  
親が一方的に決めつける、親の考え方を一方的に押し付けてきて子供の意見を言い訳としかとらえない
- しつこい・何度も何度も同じことを言うてくる・叱ってくる、ネチネチ・グチグチ
- 自分の意見を聞いてくれない、話を聞いてくれない
- どなる・大声を出す、ヒステリックに叱る
- 怖い顔で叱る、鬼のよう
- 理不尽に叱る、怒る理由が理不尽
- 長時間・話が長い、子供が折れるまで言い続ける
- 意見がコロコロ変わる・焦点がずれる。怒られていることと全く違うことを話に入れて来て怒る、一つのことに関立てたら今まで注意しなかったことも叱る、数分前に言っていたことと今怒っている時に言っていることが違う、怒られている内容と全然関係ない私への個人的な愚言を言う、

こんな叱られ方なら少し親と話してもいい

- 自分の意見を聞いてくれる・言わせてくれる
- 優しく言ってくれる・口調にトゲがない、キツくない
- どうして叱るのか理由を教えてくれる・なぜその行動がだめなのか説明してくれる
- 感情的にならない・怒るなら冷静に落ち着いた感じで
- 話し合う・対話をする

②富山市内中学校でのアンケート結果をまとめた資料(一部抜粋)

## 伝える言葉 親から子へ、子から親へ

～チクチク言葉、ふわふわ言葉  
この言葉はOKなの?～

タケヒロさんは、長男のカンタ君とサッカーをしています。カンタ君は、どちらかという体を動かすより、絵を描いたりブロック遊びが好きで年々歳さんです。やり始めるうちにタケヒロさんはだんだんと熱が入ってきて、「ほら、ぼーっとしていないで!」「どこ見て眠ってるんだよー」など声をかけてしまいました。「ぼく、そんなにサッカー上手じゃないもん!」カンタ君はシクシク泣き出してしまいました。

サワコさんは、ユウちゃんの保育参観に来ていました。先生が「次のお話は・・・」と話始めた瞬間、「知っている・・・」とユウちゃんが話の続きをしゃべろうとします。「静かにしましょうね」と注意をされても、「なんで静かにするの?」など大人をからかうような口ぶり。帰り道サワコさんはあきれ果て「ふざけてばかりで恥ずかしかった!もう幼稚園には来ないよ」とキレてしまいました。

① 子供への声かけで、NGな言葉や態度は? OKなのは?

NG	OK
----	----

② チクチク言葉がつい出てしまうのは、なぜでしょう?

③ 子供の個性をどうやって伸ばしていきたいですか?

③オリジナルのプログラム(一部抜粋)

(後略)